武蔵村山市立小中一貫校　村山学園

学園だより

令和７年度６月号
統括校長　井内　潔
令和７年６月３日

【教育目標】　人にやさしく　自分に強く　英知を磨く村山の子

https://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmmurayama4sc/index.html

「まずは子供を幸せにしよう」

統括副校長　志村　雅巳

５月中旬のある新聞に「日本の子ども　心の健康低迷　ユニセフ『幸福度』調査」の結果に関する記事が掲載されていました。この記事によると、日本の子供は、高い自殺率などが要因となり「精神的な健康度」が３２位（３６位中）と低い結果になっているということでした。

この幸福度調査（＊1）は、「精神的な健康度」の他に、「身体的な健康度」「学力・社会的スキル」の３分野でランク付けされ、「身体的な健康度」は１位（４１か国中）、「学力・社会的スキル」は１２位（２７か国中）という結果（＊2）でした。

＊1 国連児童基金（ユニセフ）の調査で、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）や欧州連合（ＥＵ）加盟国が対象となり実施された。

＊2 データが不十分な国が複数あるため、国数が異なっている。

調査結果から、日本の子供たちはいわゆる先進諸国の子供に比べて、精神的な問題を抱えていると言えます。では、日本の子供たちが抱える精神的な問題の要因とはなんでしょうか。友達との人間関係、家族関係や家庭環境、学力や進路、障害や病気など、数多くの要因があると考えられます。これらの要因によるストレスや精神不安が、精神的な健康に影響を及ぼすだけではなく、様々な身体的な健康障害、さらには問題行動につながっているようです。

これからの社会は、グローバル化や情報化がますます進展し、将来の変化を予測することが難しい時代になると言われています。そのような社会を生き、未来の創り手となる子供たちには、身体的に健康であるとともに精神的にも健康であってほしいです。精神的な健康を保つためには、環境面での整備やストレスと上手に付き合うことも大切ですが、子供自身が自分の心身の状況を把握して、ストレスを対処できる力を身に付けることも重要です。

この力を身に付けることができるようにするために、東京都教育委員会では、「ＳＯＳの出し方に関する教育」を推進しており、教材のＤＶＤでは次のことが効果的であると紹介されています。

〇つらい気持ちになったときには、身近にいる信頼できる大人に相談することで、自分のことを客観的に見られるようになったり、心の苦しさが軽くなったりする。

〇分かってくれる大人と出会うために、少なくとも３人と話してみるとよい。

また、こんなストレス対処方法も紹介されています。

〇大声で叫んだり、思い切り歌ったりする。　〇せんべいをバリバリ食べる。　〇氷を握りしめる。

ストレスの対処方法は、様々あり、自分にあった方法を見つけることが大切ということですが、私たち大人にできることは、苦しんでいる子供がいれば、その苦しみに気が付き、話を聞き、苦しみを共有することであると思います。

今回の巻頭言のタイトルである「まずは子供を幸せにしよう」は、イギリスの教育者Ａ・Ｓ・ニイルが残した「まずは子供を幸せにしよう。全てはそのあとに続く」という言葉からとっています。子供が幸せになるということは、家庭や社会全体の幸福につながるという考えで、とても共感します。このニイルの言葉のように、私たち大人が、まずは子供のことよく見て、状況を把握し、その子供のことを考えて行動していくことで、子供たちの未来、そして社会はより良く変わっていくはずです。今後も、子供たちの幸せのために、家庭と学校、地域が連携して取り組んでいきたいと思います。引き続き、御理解と御協力をよろしくお願いします。